

日本文学科 3 年生対象
令和 5 年度開講「演習」仮シラバス
【専攻外演習科目】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる可能性があります。

科目名	担当者	曜日	時限	ページ
日本語教育学演習 I	菊地 康人	月	2	28
日本語教育学演習 II	菊地 康人	金	6	28
言語学演習	諸星 美智直	火	6	30
言語学演習	新井 小枝子	火	2	30
表現文化演習 II	野村 ひかり	金	5	32
表現文化演習 III	川口 晴美	木	3	32

【日本語教育学演習】

【科目名】 日本語教育学演習 I	【曜日】 月曜
【時限】 2 限	
【教員名】 菊地 康人	
【テーマ】 日本語教育を通して日本語を見つめる	
<p>(演習内容)</p> <p>〈日本語教育の入門的な知識を体系的に身につける〉ことと、〈日本語教育の学習を通して日本語そのものを見つめ直し、日本語について新たな発見をしながら、ことばを観察・分析する目を養い、ことばの魅力を改めて感じる〉ことを、2つの大きな柱とする。具体的には、日本語の初級教科書を本講のメインテキストとし、各課の趣旨（その課で教えたこと・学んでもらいたいことは何か、教科書はなぜそのようにできているかなど）や、日本語の授業でのその扱いを考え、いくつかの文法項目を日本語学的／日本語教育的に（両面に触れつつ）分析することを中心に据える演習を考えている。広い意味では日本語学的な授業の一種であるが、〈日本語学習者の目で日本語を見る〉とか〈日本語学習者のための文法〉という面がしばしば出てくるので、新たな切り口に接し、新鮮に感じてもらえるであろう。一部は、実際にどう教えるかにも時間を割きたい（教案を書いたり実演したりしてもらって改善を図る）。</p> <p>「毎回1～2人だけが大きな課題を課せられて臨む」というタイプの普通の演習の方式ではなく（日本語教育の場合、学生諸君の予備知識がそれほど十分ではないので、このやり方は難しいと思う）、「毎回、当方が事前課題を課し、その答を各自全員が準備した上で臨む」という演習の方式を採る予定。毎回の準備に必要な時間は40～80分程度を想定している。</p> <p>「日本語教育学演習Ⅱ」（金6）とは、目標・趣旨は同じだが、具体的な内容・題材（扱う課）はできるだけ重複しないように差別化し、どちらを受講しても、上記の目標・趣旨が満たされるようにするつもりである（内容が違うので両方受講することもあってよい）。どちらかという、Ⅱのほうは、これまで日本語教育関係の授業を半期以上受けた（未習でない）学生を想定し、本講Ⅰのほうは、その要件を課さない授業とする予定である。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>平常点（出席と日々の授業への取り組み）50%＋レポート（授業内容の理解度を見るものと、ある程度自由度の高い課題と、両方を少しずつ課す予定）50%</p>	

【科目名】 日本語教育学演習 II	【曜日】 金曜
【時限】 6 限	
【教員名】 菊地 康人	
【テーマ】 日本語教育を通して日本語を見つめる	
<p>(演習内容)</p> <p>〈日本語教育の入門的な知識を体系的に身につける〉ことと、〈日本語教育の学習を通して日本語そのものを見つめ直し、日本語について新たな発見をしながら、ことばを観察・分析する目を養い、ことばの魅力を改めて感じる〉ことを、2つの大きな柱とする。具体的には、</p>	

日本語の初級教科書を本講のメインテキストとし、各課の趣旨（その課で教えたこと・学んでもらいたいことは何か、教科書はなぜそのようにできているかなど）や、日本語の授業でのその扱いを考え、いくつかの文法項目を日本語学的／日本語教育的に（両面に触れつつ）分析することを中心据える演習を考えている。広い意味では日本語学的な授業の一種であるが、〈日本語学習者の目で日本語を見る〉とか〈日本語学習者のための文法〉という面がしばしば出てくるので、新たな切り口に接し、新鮮に感じてもらえるであろう。一部は、実際にどう教えるかにも時間を割きたい（教案を書いたり実演したりしてもらって改善を図る）。

「毎回1～2人だけが大きな課題を課せられて臨む」というタイプの普通の演習の方式ではなく（日本語教育の場合、学生諸君の予備知識がそれほど十分ではないので、このやり方は難しいと思う）、「毎回、当方が事前課題を課し、その答を各自全員が準備した上で臨む」という演習の方式を採る予定。毎回の準備に必要な時間は40～80分程度を想定している。

「日本語教育学演習Ⅰ」（月2）とは、目標・趣旨は同じだが、具体的な内容・題材（扱う課）はできるだけ重複しないように差別化し、どちらを受講しても、上記の目標・趣旨が満たされるようにするつもりである（内容が違うので両方受講することもあってよい）。どちらかという、本講Ⅱのほうは、これまで日本語教育関係の授業を半期以上受けた（未習でない）学生を想定し、Ⅰのほうは、その要件を課さない授業とする予定である。

（評価方法）

平常点（出席と日々の授業への取り組み）50%＋レポート（授業内容の理解度を見るものと、ある程度自由度の高い課題と、両方を少しずつ課す予定）50%

疑問が生ずることの楽しさを実感できると思います。

(評価方法)

- レポート (40%) テーマが的確に設定できたか。設定したテーマに対する調査、データ収集、および分析が的確に行えているか。レポートしての形式が的確に整えられているか。
- 平常点 (60%) 自身の口頭発表とそれに対する質疑への応答。クラスメイトの口頭発表に対する質疑応答への参加。

【表現文化演習】

【科目名】表現文化演習Ⅱ	【曜日】金曜
	【時限】5限
【教員名】野村 ひかり	
【テーマ】漢字書道一名品の表現を学ぶー	
<p>(演習内容)</p> <p>漢字書道における五つの書体(篆書・隸書・楷書・行書・草書)と、書風について、さまざまな名品を臨書することで理解していきます。</p> <p>自身の個性を生かすにはどの名品を学ぶべきか、自身が求める美しさを追求するにはどの名品を学ぶべきか、ひとりひとり考えていきます。</p> <p>選んだ名品についてのレポート作成と、名品の表現を用いた創作作品を制作します。</p> <p>書道用具持参のこと。</p> <p>初心者可。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>毎時間の取り組み</p> <p>レポート、作品等</p>	

【科目名】表現文化演習Ⅲ	【曜日】木曜
	【時限】3限
【教員名】川口 晴美	
【テーマ】日本語で書かれたさまざまな詩を読み、自分でも詩を書く。	
<p>(演習内容)</p> <p>詩を読むことを楽しみながら、言葉の働きを知り、表現方法についての考えを深める。自分なりの感想を言語化してやりとりするなかで読解の方法を学ぶ。</p> <p>自分でも詩を書いて発表し、講評を受ける。</p> <p>遠隔授業となった場合は、〈授業資料公開→課題提出〉によって進める。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>平常点。</p> <p>資料の詩や他学生の作品を積極的に読み、自分なりの読解を言語化して伝えられたか。</p> <p>自作の詩を書いて提出できたか。その作品としての完成度は十分なものだったか。</p>	